

せんだい・みやぎNPOセンターニュースレター"みんみん"は、あらゆる組織が社会課題解決をキーワードに出会うきっかけづくりと、 活動を発信をすることから、新しい風を起こしていきたいと願っています。



サービスラーニングを通しての気づきや学びを語り合う 理事の西出と2名の元インターン

P 7 :::

P 6 :

P 4 6

P<sub>2</sub>

みんみんインタビュー

ーサービスラーニングが地域社会にもたらすものとは?!

新スタッフ紹介 **ライブラリレー** 

新規会員・継続会員、ご寄附、編集後記、お知らせ、連絡先等 特定非営利活動法人ふうどばんく東北AG

P 8 ::

せんだい・みやぎNPOセンター実施事業のご紹介 Ā I N

# 「サービスラーニングが地域社会にもたらすものとは?」

当センター事業ドメインの一つに人材育成が掲げられています。当該事業についてはこれまでもその対象を若者、NPO関係者や起業希望者などに設定し様々な形で行って参りましが、市民社会を考えるうえで、地域を担う人材の発掘・育成は欠かせない事項の一つであると認識し継続して取り組んで参ります。

さて今回は当センター理事でソーシャルキャピタル論・NPO論専門の西出優子さん(東北大学大学院経済学研究科准教授)から日本の教育機関にも広がりつつあるサービスラーニングについて話を聞き、経験者の2名からサービスラーニングが彼らの人生においておよぼした影響など生の声を伺いました。

#### ●サービスラーニングとは

せんだい・みやぎNPOセンター(以下、せみ):まずサービスラーニング(以下、SL)について説明頂けますか。

西出: SLはボランティアを含めた社会体験活動を通して学習するということで、学校教育と地域社会でボランティアなどを行うコミュニティサービス(以下、CS)を組み合わせた教育手法です。それらの発祥地であるアメリカでは、国民が教育、福祉、環境などの社会課題に取り組むことで人々の生活を改善することが期待されています。またこれに参加することで市民の責任感や意識の向上がなされるとされており、特に若者の様々な能力の向上や次世代地域リーダーの育成が期待されています。1980年代以降にキャンパスコンパクトという全米大学学長のネットワークが組織され、全米にこうした考え方が広がりました。また1990年代にはロックフェラーなどの助成財団にも支援され、さらに普及したと言われています。

SLとCSの違いですが、SLは活動のなかの学びを強調し、振り返りを行うことで経験を学びにつなげることが重要要素です。活動の前に事前準備があり、活動を振り返って学びを得るという流れであり、この事前準備、活動、振り返りの3ステップが目的と責任の明確化や体系的なカリキュラムと同様に重視されます。SLの主目的は3つで、1つ目は教育の改善、2つ目は地域課題への取り組み、

西出 優子さん 東北大学大学院経済学研究科 准教授、 世んだい・みやぎNPOセンター 理事 3つ目が活動する人が市民としての意識や関わりや責任感を育むことで、これらを支援する手段がSLです。

せみ:活動するなかから様々な学びを得て、きちんと振り返って学問や理論と有機的に結び付け、それをまた活動(地域社会)に還元していく。この相互作用によって地域社会に貢献し成長していくということですね。そうなるとやはりきちんと伴走するメンターがいた方が効果的と思うのですが。

西出: その通りです。メンターによる相談対応やアドバイスなどのサポートは大きなポイントです。実際に当センターが展開している「住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム-インターンシップ奨励プログラム-Jでも事前研修や報告会があり、随時メンターとの振り返りや報告書作成などがありますね。現地協力団体や企画運営団体などのバックアップ体制も十分で、立派なSLの一つの形だと思います。これが将来的に学校の単位として認められるようになれば、より良い形になるのではないでしょうか。

せみ:そうなればさらに多くの学生に興味を持ってもらえるようになりますね。さてSL経験者において、経験前後でどのような変化がみられるか教えてください。

西出:個人差はありますが、長期で取り組んだ場合、まず顔つきが変わります。体験前は自信がなさそうにしていた学生が、体験後には自信に満ち溢れた顔つきになりますね。また地域の課題に取り組んだことにより、成熟さが増すということも言えるかと思います。長期の場合だけが効果的かといえばそうでもなく、たとえ3日間だとしても、本人たちはすごくインパクトのある出来事だったと言います。ですから短期だとしても一度は取り組んでみるべきものと確信しています。長期の方がいろいろな意味で影響が大きいことは確かですが。

**せみ**: 長期だと当然ながら精神的にも山あり谷ありの経験をし、だからこそ学びも多いのでしょうね。

西出: その山あり谷ありの経験後はコミュニケーション力が向上します。他人の様々な状況に寛容になれるというか、共感力が高まるというか。取り組んだ課題以外のものにも理解を示すことができるようになる。それが市民力につながっていると思いますね。これは座学だけでは無理な話で、社会課題とコミットしているいろいろな大人との出会いがあって初めて成されることですし、学生のうちに社会を見られることで、自分の生き方を問い直す良い機会にもなります。

**せみ**: 主体的にものごとをとらえ、課題を解決する力を持つと信じてアクションを起こせる人が地域リーダーになっていくと思う



のですが、その力を育てる要素がSLには多々あるということでしょうか。

**西出**: そうです。ただ勉強ができるということだけではなくて、地域 課題解決に実際にコミットすることによって身に着けた交渉力、調 整力、責任感、提案力、自発性や人の痛みが理解できる共感力を持 った人が、まさに地域公共人材と言えると思います。

そのために受入れ側はSLのL(ラーニング・学習)の部分を大切にする組織でなければならず、単なる労働源としか考えないところは互いにとって不幸です。この部分の調整は中間支援組織である当センターの役割かもしれませんね。

実際にSLを段取りすることは何かと手間がかかることではありますが、地域社会の発展や人材の育成という面から考えると推進していかねばならないと思っています。

せみ:SL卒業者が後にどのセクターで働こうとも、間違いなく必要とされる総合人間力は高まりますね。

続いて実際の経験者にお話を伺います。2010年に2ヶ月間インターンをした西出ゼミOBのオーランド(仮名)さんと、2012年度に1年間経験された佐藤多聞さんです。

#### ●SL経験者の声

オーランド(以下、オー):西出先生に勧められたのがきっかけでインターンをしました。それまでは人と話したり、人前で発表することは苦手だったのですが、インターンを終えた頃には平気になったということが大きかったです。西出先生やゼミ仲間にも変わったね、と言ってもらえたことを覚えています。いろいろなバックグラウンドを持った大人たちと関われたことで、すっかり生き方や考え方が変わりました。それまでは大学を出たら企業に就職してという通り一遍の生き方しか知らなかったのですが、就職したとしても自分の気持ちに応じて転職したり、活動を興すなど出来るんだなと気

づきました。インターンを終えた数か月後に東日本大震災が発災したのですが、この経験がなければ復旧ボランティアに参加しようとは思えなかったかもしれません。ちなみに卒論にはそのボランティア経験を基に「避難所の運営のあり方」としてまとめました。

佐藤:私は1年という長期インターンだったのですが、お客さんではなく組織の一員としていろいろなことを学ばせてもらう中で、人生を変える経験ができたと思っています。組織内で自分なりの想いをもって働く職員の方々を見て、自分のやりたいことを成すには行動に表わさねばならないんだと感じました。その時の気づきによって大学と専攻も変えたのですが、社会を良い方向に変えていきたいと思えたのは、インターンシップに挑戦したからこそです。

**せみ**: お二人とも本当に貴重な経験をされましたね。ちなみにメンターや報告会はどのような役割でしたか。

佐藤: それらが無ければ表面上の浅い学びにしかならなかったと思います。活動の意味とか自分のビジョンを確認する意味でもなくてはならないものでした。

オー:報告会は自分がどう成長したか意識的に探す作業で、それが自信にもつながりました。

せみ:最後にひと言お願いします。

佐藤:SLはサービスを提供する側の目線を若いうちに養える良い機会だと思いますので、ぜひ多くの人に勧めたいです。

オー:実は私は当初3日間コースを申し込んだのですが、活動していくうちに2ヶ月コースに変更しました。参加すれば必ず何かしら得るものがあると思います。

西出:せんだい・みやぎNPOセンターはこれまでもSLの取り組みを行ってきました。今後は他組織とも連携して地域全体としての仕組化につなば、次世代を担う人材育成をしていけたらと思っています。

(記録:編集 小川真美)



## 第16回通常総会報告

9月7日(日)、せんだい・みやぎNPOセンター第16回通常総会を仙台市市民活動サポートセンターにて開催致しました。当日は正会員83名中、出席19名、委任状36通、合計55名の会員数により定款22条に定めた定足数(過半数)に達しており、総会は成立いたしました。

議案は以下の通りでした。

第1号議案 2013年度の事業報告及び決算の承認

第2号議案 2014年度の事業計画及び予算の審議・決定

第3号議案 定款変更の審議・決定

第4号議案 理事・監事の選任

第1号議案、第2号議案については、それぞれ事業報告書、活動計算書に基づいて、事務局長の伊藤、代表理事である紅邑より報告し、承認をいただきました。

引き続き、第3号議案の当センターの定款変更については会員の方からご意見を加え1部修正を加えた形で承認を頂きました。 第4号議案については、理事会からの提案について審議した結果、理事候補者11名(うち新任理事2名)と監事候補者3名(うち新任監事1名)とする案で議決致しました。

今回の総会は、予定の時間を大幅に越えて会員のみなさまとの議論の時間があり、当センターの事業内容へのご質問やご意見の他、組織の今後の方向性や役員改選についてもさまざまなご意見を頂きました。

様々なご意見を真摯に受け止め、新役員体制の中で組織体制や理事会の在り方、事業内容を含めて見直しや検討をしていく所存です。なお、総会後に行われた理事会において、代表理事、常務理事が互選されましたので、併せてご報告申し上げます。

【2014年~2016年役員】(五十音順)

代表理事:大滝精一、紅邑晶子

常務理事: 伊藤浩子

理 事:風見正三(宮城大学事業構想学部副学部長)

(新)白木福次郎

(特定非営利活動法人ほつぷの森 理事長)

(新)高橋由佳

(特定非営利活動法人Switch 理事長)

西出裕子

(東北大学大学院経済学研究科准教授)

新川達郎

(同支社大学大学院総合政策科学研究科長)

針生英一

(ハリウコミュニケーションズ㈱代表取締役)

平井俊之

渡辺一馬(一般社団法人ワカツク 代表理事)

監事: 沼倉雅枝(公認会計士·税理士)

長谷川公一(東北大学大学院文学研究科 教授) (新)茂木宏友(司法書士)

(伊藤浩子)

## 実施事業の紹介

## 国連防災世界会議開催まで あと4か月

第3回国連防災世界会議 開催都市 仙台



UN World Conference on Disaster Risk Reduction 2015 Sendai Japan

来年2015年3月14日~18日、第3回国連防災世界会議(Third UN World Conference on Disaster Risk Reduction)が仙台市で行われ、193の国連加盟国、国際機関、NGOの代表団が仙台を訪れます。国際センター及び建築中の新施設では国連国際防災戦略事務局が本会議を行い、これからの防災・減災のための行動規範(2005年神戸での第2回会議で採択された兵庫行動枠組の後続規範)を採択します。並行して仙台市内のさまざまな公共施設ではパブリックフォーラムと呼ばれる防災・減災に関するイベントが多数行われます。

今回の仙台開催の特徴はテーマ館が設置され、地域活動団体が参画する場ができたことです。エルパーク仙台を会場とする「女性と防災」、仙台市市民活動サポートセンターを会場とする「市民協働と防災」の二つのテーマ館です。「女性と防災」と「市民協働と防災」はかけはなれたテーマではありません。両テーマ館とも、地域課題を解決するさまざま分野の取り組みや多様なセクターの市民が日ごろから協力しているコミュニティ運営とはどういうものかなどを考え、国内外の人々と連携してコミュニティ防災の知恵を学び合う場を作るものです。

その一つである「市民協働と防災」テーマ館は「防災からまちづくりを考える実行委員会」が運営し、「マチノワ〜つながることがまちのチカラになる〜」を大きなキャッチフレーズとして、開催日ごとに「ひきだす」「支える」「つながる」「ひろげる」の4つのテーマを設定しています。地域活動団体の「平常時の市民協働」と「非常時の市民防災」についての取り組みを多くの方に知っていただくため、震災の記憶、記録から防災の知恵を学び合い共感し広げていく場をつくります。

震災後、「絆」や「つながり」といった言葉をよく見かけるようになりましたが、「絆」や「つながり」はそれ自体を作ることが目的なのではなく「コミュニティが持続する」、「暮らし続ける」ひいては「住民の命を守る」ことに必要不可欠なものです。ご近所同士で声を掛け合って避難し、命が守られた方もたくさんいます。仙台は以前から市民活動が盛んな街でもあり、当たり前のように行われてきたこうした活動が東日本大震災後も復旧・復興のための活動や被災者を支援する大きな力となっているのです。

「市民協働と防災」テーマ館についての詳細はホームページ: http://machinowa.net でお伝えしていますので是非ご覧ください。

(髙橋道子)

## ■「みんみんファンド」から小さな協働に対する助成を始めます。

みんみんファンドは、NPOや市民活動団体に活動資金を提供するプログラムとして、2003年7月に設置されましたが、それから約10年の時を経た今日では、「まちづくり」や「協働」といったキーワードは、ニュース等で目にしない日はないほど身近なテーマとなりました。NPOや市民活動団体が提供するサービスは、行政の公共サービスと同じくらい地域では必要となり、沢山の市民が参加して地域の困りごとを解決していく取組みが日常的に見られるようになりました。

地方創生を唱える声が政府から上がつている昨今、市民・団体・行政との協働によるまちづくりは、今後も大きなテーマであることに変わりありませんが、大きな取組みだけが協働ではありません。わたしたちの暮らしている地域に潜む「小さな問題」を見つけ出して、市民の力で解決することも立派なまちづくりです。

そこで、みんみんファンドでは、そんな市民の公益的社会的活動を支えるべく、新しい協働・地域の協働を促進させる資金助成プロジェクトとして、NPOや市民活動団体に留まらず、地域の課題解決のために行動したいと考える企業や町内会など、地域が抱える問題を解決するために複数の団体と連携して行う活動に対し、助成を始めます。

公募は今年の秋から冬にかけて行い、助成期間は来年春から1年間を予定しています。また、仙台市市民活動サポートセンターでも相談を受付けますので、皆様のご応募をお待ちしております。詳細は、当センターのHPにてご紹介致します。 (髙荷聡子)

## ■NPO法人の「会計セミナー&税務・会計専門相談会」

仙台市所轄のNPO法人は2014年9月1日現在414団体、そのうち震災後に設立されたNPO法人は、約110団体あります。震災後、被災者でもある市民自らが法人を設立し、地域課題の解決に取り組んでいます。震災復興やまちづくりの担い手として活動しているNPO法人には、その成果に期待が寄せられていますし、地域に根ざした継続的な活動と、信頼性のある組織運営が望まれています。では何を担保に信頼されるのでしょう?

まずNPO法人は、所轄庁へ事業報告書の提出が義務となっておりますので、インターネットで検索すると、いつでも団体の活動報告書を見ることができます。その報告書ではどのような活動と成果があったかをしっかり伝えることが信頼を得るための第一歩となります。次に事務能力、会計や税務、労務、法令上の手続き等を法令違反とならぬよう、忘れず行う必要があります。法令順守は法人であれば基本です。

法人を設立して間もない、また、まだ事務手続きなどに自信がないと感じているNPO法人のためにセミナーを開催いたします。活動の先にある理想の未来に、少しでも早く近づくために、継続できうる団体の基礎となる「力」をつけませんか。

### ■セミナー開催予定

内 容	開催予定日
会計担当者初任者向けセミナー	10月16日、10月31日(内容同じ)
NPO法人会計基準・計算書類の作成	11月28日、12月2日 (同上)
税務·会計専門相談会	10月16日
法人運営に必要な「税務」	12月中旬~1月中旬
法人運営に必要な「労務」	1月下旬
法人の事務局運営に必要な事務処理	2月上旬
認定・仮認定を目指すには	日程未定

(遊佐さゆり)

## ■フラスコイノベーションスクール「活動報告会」&「スクールPART3」開講のお知らせ

2012年7月に開講しましたフラスコイノベーションスクール、今年度で3期目を迎えます。被災地の前線で活動する社会起業家を育成・支援することを目的に、これまでに100名をこえる受講者、50名をこえる講師・スタッフによって実施してまいりました。

12月20日に、これまでの受講者の活動報告会を開催いたします。受講者のプレゼンテーションを中心に、総合プロデューサーである風見正三氏(宮城大学教授)のコメントとともに、これまでの活動を振り返り、スクールPART3のスタートとすべく企画しました。震災復興を期に、

## フラスコイノベーションスクールPART3 in石巻 『(仮称)6次<u>化リーダー育成スクール』</u>

キックオフセミナー:2014年12月4日(木)18:00~19:30

会場: 石巻駅前「Coworking!@Ishinomaki」

**定 員**:12名 (聴講枠もあります。)

会費:無料

※詳細は、ホームページ「フラスコイノベーションスクール」をご参照ください。

社会起業家の存在があらためて注目されています。スクール開講 後、3年の節目となる本年度は、私たちの活動も何らかの形で記録 に残すことも検討中です。(なお活動報告会の詳細は、本ニューズ レターの最終ページに掲載しております。)

さて本年12月には、「フラスコイノベーションスクールPART3」を開講します。PART3は会場を宮城県石巻市に移し、「6次産業化」をテーマに、コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの視点からの連続講座を5回開催いたします。詳細は以下のとおりです。

(佐々木秀之)

## 実施事業の紹介

各施設で実施した事業やオススメの情報を紹介します。詳細は、掲載されている内容で検索し、HPやブログでご覧いただけます。

## 仙台市市民活動サポートセンター

## ■市民活動団体・NPO法人のための「社会を動かす広報戦略」

8月24日(日)市民活動団体・NPO法人のための「社会を動かす広報戦略」を開催しました。ゲストは、戦略的に広報を行い多くの共感を呼んでいる「NPO法人グリーンバード」代表の横尾俊成さん。様々な活動に関わる中でNPO・NGOが人手不足・資金不足で広報できていない現状を知り、広告というスキルを身につけるため博報堂に入社しました。NPO法人グリーンバードでは、その経験を生かして若者の参加を促す広報戦略が展開されています。コミュニティ・オーガナイジングやクラウド・ファンディングの話など、最新の情報が盛り込まれた話は、参加者の皆さんの満足度が高い講座となりました。 **詳しくはこちら 詳しくはこちら #** 

(仙台市市民活動サポートセンター 菊地竜生)

仙台サポセン ブログ

検索

## 多賀城市市民活動サポートセンター < 社会を変えるTシャツ!?

9月6日(土)、20日(土)、多賀城市市民活動サポートセンターにて「支援につながるデザインTシャツ展」を開催しました。会場には、NPO法人GIF THOPEがデザイナーと連携して制作したチャリティTシャツ43点を展示。Tシャツには被災した子どもの居場所づくりを行う「南相馬こどものつばさ」など、社会の課題解決に取り組む団体へデザイナーからの応援メッセージが込められています。売上の一部は団体に寄付され、着ることで活動

を広めるお手伝いができます。来場者からは「ポップなデザインで活動をアピールできたり、応援できるところが良い」との感想もありました。普段、市民活動に馴染みのない方も Tシャツという身近なアイテムを通して、NPOの活動を知る機会となりました。

詳しくはこちら↓

たがさぽPress

検 索

(多賀城市市民活動サポートセンター 阿部明日香)

## みやぎ連携復興センター

## ■地域を支える人材の合同報告会

9月3日(水)、「平成26年度 復興支援員・地域おこし協力隊 活動中間報告会」を開催しました。東日本大震災からの復興を支える「復興支援員」、および人口減少や高齢化等の進行が著しい地域において、地域力の維持・強化を図る「地域おこし協力隊」、総務省が所管する二つの人的支援制度を活用する宮城県内の隊員及び関係者を対象とするものです。会の前半は各地区の活動報告を行い、後半は今後の活動に向けたロードマップ作成ワ

ークショップを行いました。事後アンケートでは、「自身の活動を振り返れて良かった」などの回答が多く、多くの参加者にとって日頃の取組を見つめなおし、今後の取組を整理する機会となった様です。 (みやぎ連携復興センター 石塚直樹)

詳しくはこちら↓

みやぎれんぷく

検索

## 大町事務所

## ■住友商事ユースチャレンジ・フォーラム2014

9月20日(土)、21日(日)、『住友商事ユースチャレンジ・フォーラム2014』が開催されました。このフォーラムは、「活動・研修助成」プログラム参加団体の報告会で、活動報告、ポスターセッション、昨年の当センターインターンも登壇した公開シンポジウムと、盛り沢山の内容でした。現在、11月30日(日)開催予定の「インターンシップ奨励プログラム」宮城県中間報告会へ向けてインターン生と共に準備をしています。

(「住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」は、「活動・研修助成」と「インターンシップ奨励プログラム」から構成され、当センターは「インターンシップ奨励プログラム」の宮城県現地協力団体です。) (今野くに江)

詳しくはこちら↓

住友商事ユースチャレンジ

検索

## 新スタッフ紹介

#### 宮野 竜也(ミヤノタツヤ)

勤務地:みやぎ連携復興センター

はじめまして。震災から3年半が経ちましたが、被災地の課題はまだまだ多く、復興はまだ道半ばとの話を聞きました。自分が何かできることがないか考える中で、被災地住民の自立に向けた多くの団体の存在、そしてその中間支援を行う当センターを知り入職を希望しました。神奈川県、静岡県、北海道と転々としていますが、新たな故郷宮城県、東北の復興のために努力していきます。よろしくお願いいたします。

菅原 一禎(スガワラカズヨシ)

勤務地:仙台市市民活動サポートセンター

はじめまして。8月までゆるキャラくまもんで有名な熊本で働いており、3年半ぶりに生まれ故郷宮城に帰ってきました。これまで、技術職、サービス業などの職種をしておりましたので、NPOで働くのは初めてです。私が所属している市民団体でサポートセンターをよく利用させて頂いておりましたが、今後はスタッフとして、利用者の方が安心して市民活動を行えるように日々頑張ります。よろしくお願い致します。

## 活動やニーズ、「志」でつながろう。

# ライブラリレグ

#### 毎号「みやぎNPO情報ライブラリー※」 登録団体の中から、ひとつをご紹介します。

※NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりして、地域の市民・企業など社会一般に広く公開・発信する情報発信支援事業です。

今回は

特定非営利活動法人

# ふうどばんく東北AGAIN

http://www.foodbank.or.jp/

#### 理事・事務局長の髙橋陽佑さんにお話を伺いました。

#### 活動内容

フードバンク(以下、FB)は、賞味期限間近や規格外などの理由で、まだ食べられる状態にも関わらず、廃棄対象となってしまった食品を企業や個人から寄付として募り、福祉施設や生活困窮者支援団体などへ無償で届ける活動のことです。おおよそ50年前にアメリカで始まった取り組みで、日本では2000年に東京で団体が設立されたことを皮切りに、大都市圏を中心として団体が設立されました。地方都市では、2007年春にテレビ番組でFBが特集されたことがきっかけとなるなどして、FB団体の設立が活発になり、2008年には、東北初のFBとして「ふうどばんく東北AGAIN」(以下、あがいん)が設立されました。

現在、東北地方では宮城県と山形県にしかFBがないことから、東日本大震災以降は、宮城県内のNPOや仮設住宅、集会所等の食料支援ニーズへの対応をすると同時に、可能な範囲で岩手や福島等県外からの要請に応えてきました、同時に岩手・福島でのFB立ち上げ支援を行っています。

活動を続けるうちに、団体や施設の他、社会福祉協議会や民生委員等、個々人の生活支援を行っている組織からの食料支援相談が増えてきました。そのため個々人からの多様なケースに対応するため、自立支援を行う複数のNPOや各種支援機関とのネットワーク作りを強化してきました。例えば、子どもの貧困や貧困の連鎖等を要因とし

た食料支援の要請の場合には、 学習支援を行うNPOと連携して 教育格差の解消と家計応援とし ての食料支援をセットで行うな ど、「支援の幅」を出来るだけ広 げ単独の支援に終わらないこと を意識しています。



理事・事務局長の髙橋陽佑さん

#### 現在の活動での、注目ポイント

## ■当事者のストーリーに寄り添いつつ、 食の面からの中間支援を行う

このような、幅を広げる支援については、ある意味「食を通した中間支援」だと思っています。単にモノを渡すというプログラム形式で活動すれば、相手の状況を聞く必要がないため楽ですが、それでは本当に必要とされた支援に繋がらない可能性があります。当事者にも多様な遠因があり、現在抱えている問題もさまざまです。

一方で、個別のケースに深く関わってしまうと、仙台市以外のケースに対応出来なくなるジレンマに陥ります。だからこそ、テーマ型からコミュニティ型の支援や、企業、行政、社協、民生委員等の社会資源まで、ステークホルダーとの幅広い協働関係の構築が重要です。

#### ■FBをとりまく環境と未来

農林水産省の平成22年度推計によると、食品廃棄物のうち、可食状態で廃棄される「食品ロス」は年間約500?800万トンに上ります。その中で企業側から出る食品ロスは300?400万トンですが、全国のFBが対応しているのは全量を合わせても1%にも満たないのが現状です。

理由として、FBの運営体力がまだまだ脆弱であることや、企業が善意の気持ちで寄付したいと思っても、製造物責任法上の何らかのリスクを勘案する必要があることなどがあげられます。欧米では悪意が無い場合には一定の範囲で免責される法制度が整備されています。日本ではすぐ政策提言できるほど環境が整っていないので、まずはFB間のネットワークを強化し、論点整理をしたいと考えています。

#### 読者のみなさんへのメッセージ

FBの価値は食品だけにとどまらず、「支援の幅」を広げる程、支援への共感度が高まっていきます。共感して頂いた方の想いを伺うと、それぞれの人生で大切にしてきたストーリーがあり、それがFBに接点があったことを感じます。これはFBに限らず、他の事業を行っているNPOの方々、CSRを行う企業の方々、協働関係を築く行政も大小はあれ同じような接点を感じた経験は多いと想います。中間支援的に言うと、「ナラティブ・マネジメント」になると思いますが、より多くの共感や価値を生み出せるような、多様なストーリーを紡げる主体になり得たらと思っています。

お問い 合せは 特定非営利活動法人

ふうどばんく東北AGAIN

電話:070-6494-7044 FAX:022-774-1410 >

メールアドレス: info@foodbank or in

次号の団体は一

事務局長 髙橋陽佑さんよりご紹介

#### 「特定非営利活動法人POSSE(仙台POSSE)」

若者の労働相談や労働法教育をはじめ、生活支援事業や 東日本大震災後の引っ越し等のお手伝いなどに取り組ん でいらっしゃいます。

(髙荷聡子)

7

## サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成25年度·26年度会員(敬称略·順不同、2014年8月1日~10月3日)

(正会員)長谷川公一、平井俊之、八木健、飯室真美、茂木宏友、(特)麦の会、白木福次郎、(特)Switch、坂下やすこ、(特)ソキウスせんだい、

(特)グループゆう、渡辺博之、渡邊兼光、(特)みちのく6次産業プラットフォーム、北尚登、(特)あかねグループ、(特)多賀城市民スポーツクラブ、

(特)ほつとあい、菊地竜生、桃生和成、大滝精一、白川由利枝、(認特)みやぎ発達障害サポートネット、(特)ゆうあんどあい、

(特)住民互助福祉団体ささえ愛山元、(特)いわてNPO-NETサポート、(特)杜の伝言板ゆるる、(特)山形の公益活動を応援する会・アミル、

遠藤智栄、川村志厚、(特)白神自然学校一ツ森校、山岡義典、(特)ワンファミリー仙台、(特)やまがた育児サークルランド、

(特)日本ファンドレイジング協会、(特)東北マンション管理組合連合会、(株)東日本放送、(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

(準会員)大泉太由子、横須賀和江、(特)シャロームの会、愛知絢子、朝田恵美、瀧澤陽子、くらしきパートナーシップ推進ひろば、

(特)都市デザインワークス、上野裕子、青木ユカリ、食育NPO「おむすび」、中村祥子、渡辺祥子、遊佐さゆり、(有)平野印刷所、鈴木素雄、

川崎あや、(特)ふくしまNPOネットワークセンター、藤田佐和子、(社)日本損害保険協会東北支部、鈴木典男、

青少年と障がい者の自立支援センター「とっておきの広場」、(社福)仙台いのちの電話、佐々木孝行、早坂毅

■企業・団体協力(敬称略) 富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

## ご寄附ありがとうございます

■福知山・広島復旧応援基金へのご協力。

1件------10,000円

# フラスコイノベーションスクール 活動報告会2012-2014

開催日:2014年12月20日(土)14:00~17:00

会場:ウエスティンホテル仙台

会 費:無料

終了後、懇親会をおこないます(会費制)。

## セミナーのご案内

内容:NPO法人会計基準·計算書類の作成(仮)

日時:11月28日(金)10:30~12:30 12月2日(火)10:30~12:30

(両日ともセミナー内容は同じです)

午後は個別相談会を行います

会場:仙台市市民活動サポートセンター研修室5

## 会費納入のコンビニ払い

6月から手続きしていましたが、予想以上に日にちが掛かっています。 手続きが終了次第、HPやブログでご案内させていただきます。もう少しお待ちください!

## 連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター 〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 7F

TEL: 022-264-1281 FAX: 022-264-1209
E-mail: minmin@minmin.org HP: http://www.minmin.org/

## 発行: (特活)せんだい・みやぎNPOセンター

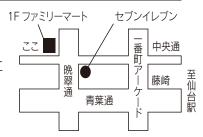
代表理事 大滝精一

紅邑晶子

編集部:小川真美 今野くに江

発行日: 2014年10月1日

デザイン:氏家朗



岡元ビル 7F 仙台駅から徒歩 20~25 分

# 編|集|後|記|

長い社会人生活のなかで、一度だけ「あなたのためを思って」と忠告を受けたことがある。私より10年以上も先輩のその社員は、開口一番にそう言ってモノローグを始めた。今号のインタビューは人材育成がテーマだ。体験談を話してくれたのは、両名とも当センターの元インターン。その時の学びを糧に、次々と新たな領域に挑戦し続ける姿は力強く頼もしい。思わず「うちの子自慢」をしたくなるところを制限するのも大変だ。私が人材育成について立派に語れるまではあと幾年も必要だが、人生折り返し地点を過ぎた今、信条にしていることの一つは「力を奪わないこと」である。彼らがもともと持っている力を最大限どう引き出すか、自分では気づいていない力にどう気付いてもらうか。おせっかいが過ぎては彼らの力を奪ってしまう。真剣に「あなたのためを思う」のならば、静かに力だけ貸し、あとは手も口も出さず黙って見守ることも必要だ。(OGAWA)

NPO法人認証団体数 | 宮城県364団体 14年8月31日現在 | 仙台市414団体 14年9月1日現在 | 全国49,310団体 14年8月31日現在(内閣府) | 認定NPO法人数全国497団体 14年9月19日現在